

令和4年度
事業報告書

学校法人 札幌青葉学園

目 次

I. 法人の概要

1. 名称・所在地	1
2. 建学の理念	1
3. 沿革	1
4. 設置する学校	2
5. 学生数	
(1) 入学定員・入学者数	2
(2) 入学者数の推移	3
6. 教職員数	3
7. 理事・監事・評議員	4
8. 組織	5

II. 事業の概要

1. 基本的な方針	6
2. 事業の実施状況	
(1) 札幌青葉鍼灸柔整専門学校	6
(2) 北海道歯科衛生士専門学校	8
(3) 北海道看護専門学校	10
3. 理事会・評議委員会の開催状況	12
4. 取得可能な称号	13
5. 学生生徒等納付金	13
6. 卒業及び就職等の状況	15
7. 国家試験の受験状況	15

III. 財務の概要

1. 学校法人会計基準	16
2. 各科目の説明	16
3. 財務運営	19
4. 事業活動収支計算書	20
5. 貸借対照表	21
6. 財産目録	22

I. 法人の概要

1 名称・所在地

名 称	学校法人 札幌青葉学園
理 事 長 名	岸野 雅方
所 在 地	〒060-0053 北海道札幌市中央区南3条東4丁目1-24
電 話 番 号	011-231-8989
認 可 年 月 日	平成15年12月8日 北海道知事認可（準学校法人）

2 建学の理念

学校法人札幌青葉学園は、2001（平成13）年に「はり師」「きゅう師」を養成する「札幌青葉鍼灸専門学院」を開設し、2003（平成15）年12月8日には準学校法人として認可され、法人名を「学校法人札幌青葉鍼灸学園」に、また学校名を「札幌青葉鍼灸専門学校」に変更しました。その後、2004（平成16）年4月には「柔道整復師」を養成する柔道整復学科を新たに設置しました。

2007（平成19）年4月には法人名を「学校法人札幌青葉学園」に、また学校名を「札幌青葉鍼灸柔整専門学校」に変更するとともに、「歯科衛生士」を養成する「北海道歯科衛生士専門学校」を開設しました。また、2012（平成24）年4月には「看護師」を養成する「北海道看護専門学校」を開設し、2020（令和2）年11月には、札幌青葉鍼灸柔整専門学校における日本語学科の設置が認可されました。

本学園では単に知識や技術だけでなく、豊かな人間性をも育めるような教育環境づくりに取り組み、学生と教職員との活発なコミュニケーションを保つことで、学生自身が主体的に学び・考え・行動する個性ある教育を推進し、社会に貢献できる医療人の育成を目指して努力してまいります。また日本語学科では、医療系の学校法人であるという特徴を生かし、特に北海道で不足している介護福祉士等の医療系資格を有する人材の育成に貢献したいと考えています。

3 沿革

2001(平成13)年 4月	厚生労働大臣からはり師・きゅう師養成施設として認定され、「札幌青葉鍼灸専門学院」として鍼灸学科昼間部（60名）を開設
2003(平成15)年 12月	北海道から準学校法人の認可を受け、併せて、「札幌青葉鍼灸専門学院」を「学校法人札幌青葉鍼灸学園札幌青葉鍼灸専門学校」に名称変更
2004(平成16)年 4月	厚生労働大臣から柔道整復師養成施設として指定され、柔道整復学科夜間部（30名）を設置するとともに、鍼灸学科夜間部（30名）を設置
2006(平成18)年 4月	柔道整復学科昼間部（60名）を設置するとともに、柔道整復学科夜間部を60名に増員
2007(平成19)年 4月	「学校法人札幌青葉鍼灸学園札幌青葉鍼灸専門学校」を「学校法人札幌青葉学園札幌青葉鍼灸柔整専門学校」に名称変更
2007(平成19)年 4月	「北海道歯科衛生士専門学校」を開設
2012(平成24)年 4月	「北海道看護専門学校」を開設
2020(令和2)年 11月	札幌青葉鍼灸柔整専門学校における日本語学科の設置認可

4 設置する学校

(令和5年5月1日現在)

学校名	学校長名	所在地・電話番号	認可年月日
札幌青葉鍼灸柔整専門学校 医療専門課程 柔道整復学科 鍼灸学科 文化・教養専門課程 日本語学科	岸野 庸平	〒060-0053 北海道札幌市中央区 南3条東4丁目1-24 TEL：011-231-8989	平成15年12月8日
北海道歯科衛生士専門学校 医療専門課程 歯科衛生士学科	吉田 重光	〒060-0042 北海道札幌市中央区 大通西19丁目1-6 TEL：011-640-6100	平成19年3月27日
北海道看護専門学校 医療専門課程 看護学科	田所 亮一	〒060-0062 北海道札幌市中央区 南2条西11丁目328-7 TEL：011-200-7100	平成24年3月7日

5 学生数

(1) 入学定員・入学者数等

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	収容定員	収容現員	収容定員充足率
柔道整復学科 昼間1部	60	42	180	119	66.1%
鍼灸学科 昼間部1部	30	27	90	75	83.3%
鍼灸学科 昼間部2部	30	9	90	21	23.3%
日本語学科 進学1年コース	20	0	20	0	0%
日本語学科 進学1.5年コース	20	10	40	10	25.0%
日本語学科 進学2年コース	20	11	40	26	65.0%
合計	180	99	460	251	54.6%

※日本語学科進学1.5年コースは10月入学のため令和4年10月入学者を含む

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	収容定員	収容現員	収容定員充足率
歯科衛生士学科 昼間部	50	53	150	136	90.7%
歯科衛生士学科 夜間部	30	20	90	54	60.0%
合計	80	73	240	190	79.2%

◆ 北海道看護専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	入学定員	入学者数	収容定員	収容現員	収容定員 充足率
看護学科	80	76	240	243	101.3%

(2) 入学者数の推移

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
柔道整復学科	45	45	38	42
鍼灸学科	33	40	30	36
日本語学科	—	1	26	11
合 計	78	86	94	89

※日本語学科の入学者には各年度とも10月入学の1.5年コースの入学者を含む

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
歯科衛生士学科	59	77	60	73

◆ 北海道看護専門学校

(各年度5月1日現在、単位：名)

学科	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
看護学科	84	84	84	76

6 教職員数

(令和5年5月1日現在、単位：名)

	専任		非常勤者等	
	教員	職員	教員	職員
法人本部	0	6	0	2
札幌青葉鍼灸柔整専門学校	22	10	20	0
北海道歯科衛生士専門学校	12	5	55	0
北海道看護専門学校	23	7	58	0
合 計	57	28	133	2

◆ 理事・監事

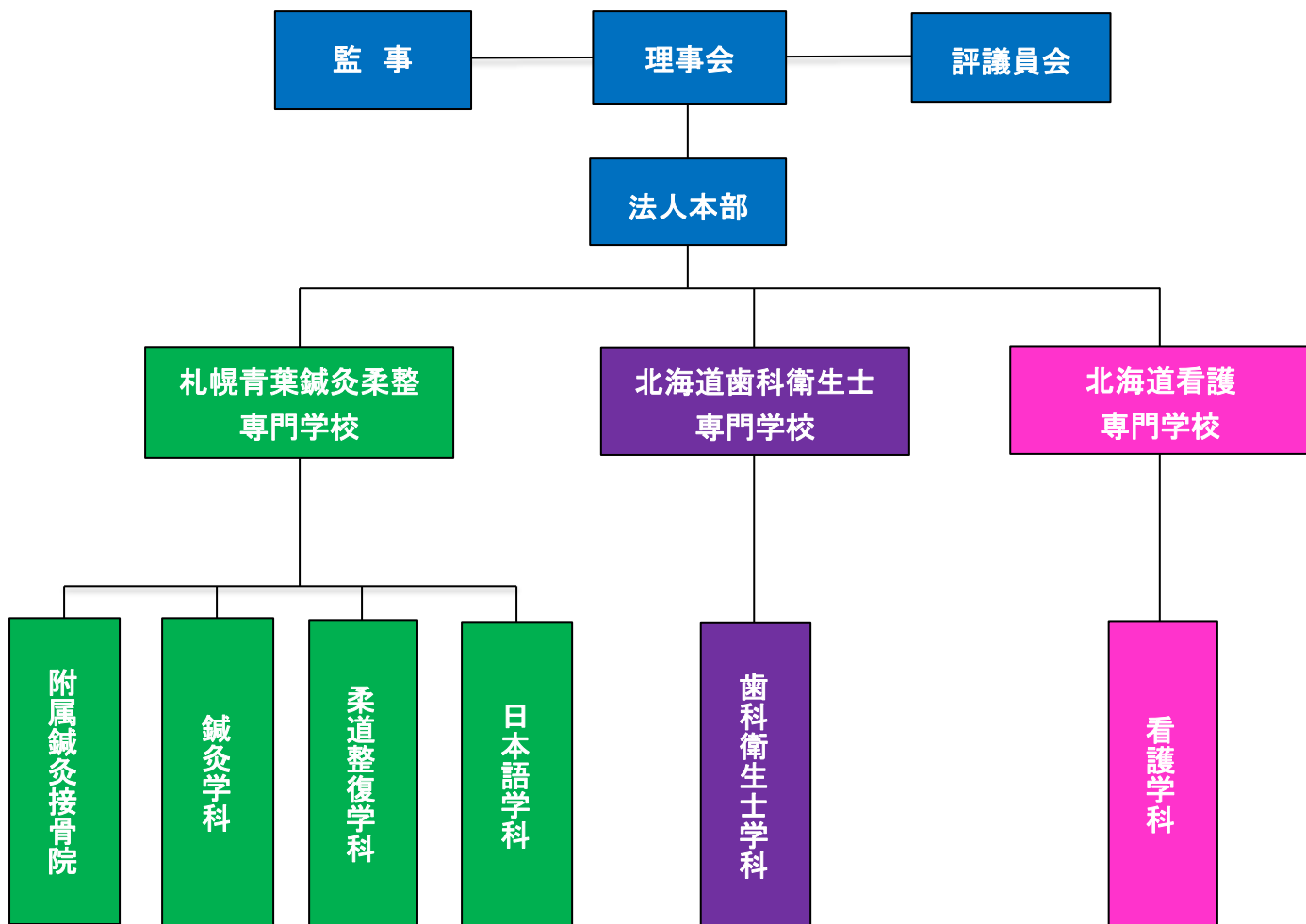
(令和5年5月1日現在)

	氏名	就(重)任年月	主な現職等
理事長	岸野 雅方	令和5年4月	公益社団法人全国柔整鍼灸協会代表理事 学校法人平成医療学園理事長 学校法人平成医療学園宝塚医療大学学長
常務理事	吉田 重光	令和5年4月	北海道歯科衛生士専門学校・校長
理事	岸野 庸平	令和5年4月	札幌青葉鍼灸柔整専門学校・校長
	田所 亮一	令和5年4月	北海道看護専門学校・校長
	岩倉 淳	令和5年4月	札幌青葉鍼灸柔整専門学校・顧問
	小松 恵治	令和5年4月	北海道看護専門学校・統括長
	木野 達司	令和5年4月	学校法人平成医療学園・理事
監事	岡田 光司	令和5年4月	学校法人平成医療学園・理事
	田村 智幸	令和5年4月	弁護士
	樋爪 昌之	令和5年4月	公認会計士
定数	理事8人以上10人以内、監事2人		

◆ 評議員

(令和5年5月1日現在)

	氏名	就(重)任年月	氏名	就(重)任年月
評議員	岸野 雅方	令和5年4月	加藤 洋平	令和5年4月
	吉田 重光	令和5年4月	吉田 達也	令和5年4月
	岸野 庸平	令和5年4月	杉浦 透	令和5年4月
	田所 亮一	令和5年4月	片倉 弘隆	令和5年4月
	岩倉 淳	令和5年4月	及川佑季子	令和5年4月
	小松 恵治	令和5年4月	八木留利花	令和5年4月
	木野 達司	令和5年4月	山川 巳穂	令和5年4月
	岡田 光司	令和5年4月	三浦 健人	令和5年4月
	豊田 敏志	令和5年4月	吉田 真人	令和5年4月
定数	17人以上21人以内			



II. 事業の概要

1 基本的な方針

本学園は、教育研究体制の整備充実を図るとともに、教育内容のより一層の改善・充実や施設設備の整備等を行うことによって、多様な社会の要請に応える有為な人材の育成に努めます。また、少子高齢化の進展に伴う18歳人口の減少等の社会情勢の変化に的確に対応し、学園の円滑な運営を行い今後の更なる発展を期するために、入学者の確保や経営の効率化などにより財政基盤の着実な強化を図ります。

2 事業の実施状況

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

①入学者の確保

○鍼灸学科・柔道整復学科

令和5年度の入学生は78名で、内訳は鍼灸学科昼間1部が27名（定員30名：定員充足率90%）、鍼灸学科昼間2部が9名（定員30名：定員充足率30%）、柔道整復学科昼間1部が42名（定員60名：定員充足率70%）でした。

学生募集活動については、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症対策として、オープンキャンパスにおいて、来校型とオンライン型のオープンキャンパスを実施、遠方在住でも参加しやすい環境を整えました。

しかしながら、主なターゲットである高校生の関心が高いスポーツ分野において、鍼灸・柔道整復学科をもつ競合校と比較すると突出した特色が作れておらず、本校の特色であった授業時間外に行なうゼミが、正規授業時間や教員数不足の問題や新型コロナウイルス感染の影響により、あまり実施できていないこと等、競合校との差別化のアピールが難しく、高校生の獲得に苦戦する結果となりました。

一方、本校の特色の一つである、はり師・きゅう師・柔道整復師のトリプルライセンスを取得するためのダブルスクールについては、在校生に対して学内で説明会を実施した他、教員・広報職員が日常的に学生との対話を実施しました。

その他の一般社会人については、資料請求者に対して電話やオンライン、来校での個別相談、社会人対象の進学セミナー等を実施し、個々が抱える問題を解決することで出願に繋げることができました。

また昨年度同様、SNS（Twitter、Instagram、Facebook、Youtubeなど）に授業風景や学生の学校生活の様子を写真や動画で投稿することで、まだ本校を認知していない方にも情報を提供し、さらに本校へのより深い理解に進んでもらえるようオープンキャンパス開催の告知も行いました。

高校訪問並びに本校卒業生が開業・勤務する治療院の訪問活動については、新型コロナウイルス感染症の影響から、訪問を断られる場合が昨年度同様に多く、例年と比べ実施数は減少しましたが、可能な場合は訪問を行い、学校説明や進学検討者に関する情報を共有しました。

○日本語学科

令和4年4月開講の2年コースの入学生は16名（モンゴル人2名、ネパール人14名）、令和4年度10月開講の1.5年コースの入学生は10名（モンゴル人1名、ネパール人9名）でした。また、令和4年4月開講の1年コースについては志願者がいませんでした。

留学生募集活動については、新型コロナウイルス感染の影響により、外国現地に直接出向いた活動ができなかったことから、外国現地の留学生紹介エージェントとZoomやSkypeを利用したオンライン上で綿密に連絡を取り合い、現地のエージェントを利用して留学希望者を募りました。さらに、ライセンスアカデミー等主催の留学フェア（Zoomを利用した遠隔）を通じて本校日本語学科の特色や魅力を伝えました。

②教育の充実

○鍼灸学科・柔道整復学科

本校の特徴でもある臨床教育については、「職業実践専門課程」の教育課程編成委員会の意見をもとに、関連業種の企業との連携を図り、外部講師を招くことで、臨床現場の状況を伝え、卒業後に役立つ内容の授業を実施することができました。さらに、附属鍼灸治療院・接骨院において教員が施術を実施する風景を学生に伝えることで、卒業後の即戦力となる技術を身につける教育にも着手しました。また、将来の選択肢として、「福祉」や「美容」の分野でも活かせることを目標にした自由選択ゼミについては、新型コロナウイルス感染拡大の影響、体調不良や育休等による教員の休職により教員数の不足、授業や国家試験対策などの学生対応等により実施する時間が少なくなってしまうしました。

また、教員の資質向上を目的として、毎年実施している「学生による授業評価」をもとに、授業内容および実施方法などを見直すとともに、校長による教員との面談を実施して、教授方法等の改善、検討をするように指導をおこないました。

さらに、正規授業以外に3年生で実施してきた「寺子屋方式」の個別指導を1年生から実施することで、授業の予習や復習のみならず、勉強方法の指導や生活指導を行うことができました。

また、高校時代に勉強の習慣が全くないという者が多く、医療系の学習内容についてくることができなく退学してしまう学生が多かったことから、今後は個別指導の強化を図ることで、学生の学習面のみならず精神面においてもフォローしていきます。

○日本語学科

留学生の入国時期が少し異なることで、授業の開始に多少の支障は出たものの、対面授業を実施して、カリキュラムの内容はほとんど実施することができました。また日本語習得には個人差があることから、入国後は補習や面談等を実施することで、学生の学習面のみならず精神面においてもフォローすることができました。

③国家試験対策の充実

国家試験の合格率について、新卒者の状況は、はり師国家試験、きゅう師国家試験ともに91.3%、柔道整復師国家試験は53.8%でした。国家試験の出題傾向の変化および出題数の変更等に備え、これまで以上に国試過去問を繰り返し解くこと、「理解力」の向上を目的として、1年時からの積み重ねの学習、勉強方法の確認を継続し、学生ひとり一人の理解度、向上心を高めるために、個別指導を行ってきました。今後の課題として、定期試験において満点（100点）を目指した勉強ではなく、合格ラインの60点を目指して勉強している学生が多いことから、国家試験の自己採点時には合格ラインの学生が多くみられます。定期試験・国家試験などすべての試験においては合格ラインギリギリの点数を目指すのではなく、もっと高い点数を取ることができるような意識向上を目指して指導を加えていきます。

④就職支援の充実

令和4年5月には、本校を会場として株式会社セイリンが主催する就職説明会、9月には株式会社セリアジョブによる就職説明会を実施して、学生への就職活動に関わる情報や企業の状況や雰囲気を知ることができる良い機会となりました。さらに、進路指導担当の教員を中心として希望者には

個別に就職相談を実施して、求人先と学生の双方が満足でき、就職先がミスマッチとならないよう就職活動を実施していきました。

⑤施設設備の整備

建物については、引き続き防災設備、水道、電気系統の点検等を実施してきました。また、老朽化していた鍼灸棟のエアコン（ボイラー・油圧機等）については、設備の入れ替え作業を実施しました。また、その他の校内設備については、故障等が発生したときには、迅速に修理・交換等を実施してきましたが、床タイルの剥がれや網戸の損傷など、緊急性のないものは教職員で簡易的な応急処置を実施しました。

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

①入学者の確保

令和5年度の入学生は、昼間部53名（定員50名、うち高校新卒者51名：定員充足率106.0%）、夜間部20名（定員30名、全員が社会人：定員充足率66.7%）の計73名（定員充足率91.3%）で、前年度より13名の増となりました。

高校3年生が主なターゲットとなる昼間部については、例年と同様に「即戦力となる歯科衛生士」を育成するという本校の教育理念を前面に出すとともに、「過去10年間、国家試験合格率・合格者数、北海道内No.1」「就職率100%」を謳い、これが達成できている理由として(1)充実した国家試験対策、(2)充実した基礎実習・臨床実習、(3)個々の学生に対するきめ細やかな指導、(4)実習先・就職先の歯科医院における在学学生・卒業生に対する高い評価などについて詳しく説明することに重点を置いた広報活動を継続しました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響が下火になってきたことから、オープンキャンパス（OC）をオンラインではなく来校で安定して開催できるようになり、高校生に向けて直接学校の魅力を伝える機会が増えました。そのため、9月のAO入試専願並びに10月の指定校推薦終了後に、定員の50名に達したため、早期に募集を終了することができました。

夜間部については、歯科助手から歯科衛生士へのキャリアアップを目指す方が多いことから、歯科医師特別推薦入試制度を設けました。また、歯科助手以外の社会人についても、北海道内唯一の歯科衛生士学科夜間部設置校であることや、学校独自の学納金減免・奨学金制度、専門実践教育訓練給付金制度が利用可能なこと等の周知活動を行ったことで、前年度と同数の入学者を確保することができました。

また、年度途中で広報活動の実施主体が学園単位から学校単位に移行する中で、教員・事務職員・広報職員間での情報や意識・課題の共有を改めて行うことにより、教職員間の連携が深まり、臨機応変にオープンキャンパスや個別相談等の内容の見直しができました。

令和6年度募集からは、本格的に学校単位での広報活動が開始されるため、今後はこの連携をさらに強化し、積極的な募集活動を行っていきます。

②教育の充実

令和4年度は夜間部の教員4名のうち2名が新規採用という事もあり、昨年度から引き続き昼間部教員の数名が授業や校内実習を掛け持ちで行っている状況でした。教員のマンパワー不足は続いておりますが、教育の質を向上させるため目標に掲げていた、「学習到達度の低い学生に対する少人数学習の実施」について、GPA2.0以下の学生を対象に今年度から実施することにしました。

昼間部2年生には4～8月の臨床実習前の期間で週2回程度、また昼間部3年生は臨床実習中であるため、週1回の帰校日に校長と担任が少人数学習を実施しました。その結果、昼間部2年生では1年次のGPAよりも上昇がみられた学生もいました。また昼間部3年生は国家試験に向けて早めに学習に取り組めたこともあり、学習到達度の低い学生も無事に全員合格することができました。今後も

校長や担任をはじめとした教員全体で協力し、学習習慣を身に付けさせるためにも継続していきたいと思います。

なお、夜間教員も数的には補充されたものの、経験年数が少ない教員が殆どであるため、次年度以降も引き続き昼間部教員が協力する体制で行っていきます。

また近年の傾向として精神的な不調や不安感を訴える学生も多く、退学者が出ないように精神面でもフォローしていきたいと思います。

③国家試験対策の充実

今年度の国家試験は昼間部33名、夜間部17名が受験し、全員合格することが出来ました。

国家試験対策は例年と同様、教員による全教科の国家試験対策を行うとともに、複数回の模擬試験を実施しました。今年度は学習到達度の低い学生に対して早期から少人数学習を行うことができたため、それが功を奏したのか模擬試験の目標点数に早めに到達できた学生もおりました。

また、昨年同様に昼間部・夜間部の教員が協力して、1月から毎週土・日曜に少人数学習を行いました。昼夜の枠を超えてたくさんの教員が国試対策に関わることで、知識の取りこぼしが無い様にフォローすることができたように思います。

また12月頃には点数の伸び悩みが見られる学生の保護者に連絡して、家庭学習の環境を整えてもらうよう協力を依頼し、夜間部の学生についても勤務日数のセーブなど職場に相談するよう促しました。

在校生に対しては、日頃の授業の重要性や取り組み方についての指導を行い、欠席の多い学生、成績に伸び悩みが見られる学生に対しては、早期から保護者に連絡をして学生の状況を理解してもらい、学習に集中できる環境づくりに協力してもらいたいと思います。

④就職支援の充実

今年度の就職希望者に関しては年内にはほぼ全員内定しました。昼間部については例年通りに臨床実習先での就職を希望する者が最も多く、夜間部については現在の勤務先に歯科衛生士として引き続き採用してもらう学生が多かったです。

歯科医院からは慢性的に求人の問い合わせが多く、全国的に歯科衛生士が充足していない状況が窺えます。新卒生のみならず、既卒生とも学校が窓口となって様々な分野で活躍できるよう、今後より良い就職活動支援を行っていきたいと考えています。

⑤施設設備の整備

令和4年度は以下の施設設備の整備を行いました。

- 1) 実習室の整備
 - ①2階実習室のマネキン実習設備の整備
 - ②3階実習室のユニット用機器（ハンドピース・バキューム、3wayシリンジ）
 - ③実習用機器（口腔内撮影用カメラ、アネロイド血圧計）
- 2) 教職員用PC3台（毎年の定期更新）
- 3) 2階教室1のルーター増設
- 4) 教室用プロジェクター天吊り工事
- 5) 1階玄関前の花壇の整備
- 6) エアコン修理（室内機・室外機故障、フロン定期点検）
- 7) 正面玄関及び通用口のオートロックの修理

開校から16年が経過し、校舎・備品等に経年劣化が見られる箇所が増えてきていますので、その他については次年度以降に順次整備を行っていく予定です。

◆ 北海道看護専門学校

①入学者の確保

入学者確保の環境は、18歳人口の激減や4年生大学の台頭などにより入学者確保が一段と厳しい状況になっています。令和5年度入学生については、北海道全域で看護を目指す学生の出願数が急速に減少した影響もあり、本校においては令和元年度の79名以来2度目の定員割れとなる76名となりました。

入学区分ごとの入学者数は、指定校推薦入学が2名、地域指定推薦入学が10名、高校推薦入学が15名、社会人入学が15名、一般入学が34名となっています。出願者の総数は158名（昨年度241名）で、前年と比べ大幅に減少したことが定員割れの要因の一つではあるものの、合格後の辞退者数の増加も要因であると考えます。

入学者の確保には、学校の教育の質を高め在校生および卒業生から評価されることが最も基本で有ると捉え、これに向け日々教職員一体となって取り組みました。これら学生からの所謂口コミとは別に、学校が直接的に看護師を目指す学生に本校を知ってもらう機会として重要なオープンキャンパス、入試説明会、個別相談会の充実を今年度も図りました。

学校に足を運んでもらい在校生からも評価の高い校舎や立地、さらに学校の雰囲気を感じて頂き本校を理解してもらう事が最も重要との認識の下、例年アンケート調査により評価の高い「在校生との懇談」について内容の充実と時間の延長を図り、また保護者と教員の懇談会を設けるなどして開催しました。

入学者の確保については、今年度の出願数・入学者数の減少の要因を分析し、次年度に備える必要があります。入学者選抜方法、試験内容の検討を継続して行ない、今後もオープンキャンパスなどの参加者のニーズの把握に努め、より一層の充実を図り、併せてこれらへの参加を促す広報活動に注力し、本校への理解の深化に努め優秀な学生の確保に努めます。

②教育の充実

今年度から新カリキュラム改定に沿った学習指導が始まり、コミュニケーション能力の向上や倫理に基づく看護実践能力を養うことができるような教育課程を編成し実践しました。

特に、「コミュニケーション論」を新たに設けたことにより基礎看護学方法論と連携し、看護におけるコミュニケーションに焦点を当てた演習の充実が図れ、看護の「気づき」を日常生活援助に繋がられることができたと考えます。また、自ら調べ学習できることを目的とし、電子教科書やICTの活用方法について提示することで、学習方法や学習習慣を身に付けることができたと考えます。

シミュレーション教育の充実として、外部より模擬患者(SP)を活用し、学内演習を実践することができました。演習では学内であってもより実践的でリアルな演習となり、演習終了後は学生だけでなく、模擬患者にも参加してもらい一緒にリフレクションを行い、学生たちにとって自らの看護を振り返る貴重な場となりました。今後も模擬患者を活用し、効果的な演習を実施していきたいと思えます。

臨地実習では、実習施設の受け入れ態勢の協力があり、コロナ禍の影響はあるものの臨地実習の割合が増加しました。

学生は、紙上事例では理解が難しい、「対象者の反応を確認する」「対象が理解できるように説明する」ことなど悩みながらも実践していました。臨床の場で学ぶことでの緊張感が看護師を目指すものとしての学習姿勢や社会人としての姿勢を育てていくことを実感したように考えます。

臨地実習の実施においては、専任の教員はもとより、実習インストラクター（実習指導教員）と実習施設側の指導者の教育力が重要となるため、実習施設側との更なる連携に努め、教育力の向上を図ります。また、より実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、学外の関連団体等に所属する有識者の方々を加え組織された教育課程編成委員会において、必要な情報の把握・分析を行い、授業内容や改善及び工夫に繋げ、一層の教育の充実を図ります。

③国家試験対策の充実

本校の看護師国家試験の合格率は全国平均を上回る合格率とはなっていますが、2019年度100%となつて以降、100%にはなっておらず今年度は97.1%（全国平均95.5%）にとどまっています。

国家試験対策としては、1年次より学習習慣をつけさせ基礎的な知識について学び、2年次より担任を中心とした個別指導を行いながら自律的に学べるようサポートを図りたいと思います。

3年次では、担任と国家試験対策チームが不得意な科目等について個別指導を実施するとともに、学生同士が学び合える学習環境を提供したいと思います。

また、今年度、既卒者5名中1名のみが合格であり、年間を通じたサポート体制が不足していたと考えます。仕事（看護助手）をしながらの学習状況の把握などが必要であったと思います。

不合格者の中には准看護師試験には合格をしていますが、次年度の看護師国家試験合格に向けて担当教員との定期的な面談（生活状況なども含めた）と学習計画を立案し調整を実施していく予定です。

④就職支援の充実

今年度の就職状況は100%であり、昨年と同様に札幌市内への就職を希望する学生が増加傾向にあります。なかでも実習病院への就職が約7割を占めており、実習先の看護師長や指導者の印象や先輩である卒業生が多く働いている病院に就職している傾向があります。

昨年度と比べても第1志望の病院への就職率も高く、それぞれが希望している病院に入職することができています。キャリア支援において1年次から就活スケジュールなど具体的なイメージをさせながら、自分に合った病院選びができるように個別対応していくことで学生にとって納得のいくサポートができていていると考えています。

⑤施設設備の整備

令和4年度は、「学習環境の向上」、「業務の効率化」、「経年劣化対応」および「必要な定期整備」のテーマ別に優先度等を勘案し、以下の施設設備の整備を行いました。

1. 学生の学習環境向上に資する整備

①3階多目的ホールのスライディングウォールによる分割使用時のWi-Fi環境保持のための無線ルーターの整備

②新型コロナウイルス感染症の影響による臨地実習の学内実習振替対応用として3階多目的ホールに医療用ベッド6台を設置（3年連続）

2. 教員の業務効率向上に資する整備

①電子教科書の利用等ICT教育推進のため、PCのスペックアップを目的に教員用20台を更新

②前記に合わせたタブレット端末も3台3年連続で購入整備

③高速プリンターおよび教務室のカラー複合機をそれぞれ最新機種に入れ替

3. 経年劣化に対応した整備

①空気調和設備の整備

ア) 1階事務・教務室空調ゾーンの室外機の圧縮機および電子制御機器の交換整備

イ) 2階図書室およびディスカッションルーム空調ゾーンの室外機の圧縮機および電子制御機器の交換整備

ウ) 6階実習室空調ゾーンの室外機の電子制御機器の交換整備

4. 定期整備

①校内8か所の防火防煙シャッターの危害防止装置作動用蓄電池の法令に基づく交換

②空気調和設備室内機器のフィルター（全63か所）清掃

5. その他

①指紋認証による勤怠管理システムの導入

②除雪機の購入

3 理事会・評議員会の開催状況

◆ 理事会

(令和4年度開催実績)

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和4年5月28日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 令和3年度事業報告書(案)について 第2号議案：学校法人札幌青葉学園 令和3年度決算(案)について 第3号議案：学校法人札幌青葉学園 就業規則変更(案)について
令和4年9月10日	第1号議案：北海道歯科衛生士専門学校のカリキュラム変更(案)について 第2号議案：北海道歯科衛生士専門学校の臨床実習施設の変更(案)について 第3号議案：北海道看護専門学校の臨床実習施設の変更(案)について
令和4年11月12日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 令和4年度予算の補正(案)について 第2号議案：学校法人札幌青葉学園 就業規則変更(案)について 第3号議案：学校法人札幌青葉学園 給与規程変更(案)について 第4号議案：北海道看護専門学校における教員調整手当の支給に関する細則(案)について 第5号議案：北海道看護専門学校の臨床実習施設の変更(案)について
令和5年3月10日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 令和5年度事業計画(案)について 第2号議案：学校法人札幌青葉学園 令和5年度予算(案)について 第3号議案：学校法人札幌青葉学園 理事の選任区分の変更(案)について 第4号議案：学校法人札幌青葉学園 理事監事評議員の選任(案)について 第5号議案：北海道歯科衛生士専門学校の臨床実習施設の変更(案)について

◆ 評議員会

(令和4年度開催実績)

開催年月日	主 な 協 議 内 容
令和4年5月28日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 令和3年度事業報告書(案)について 第2号議案：学校法人札幌青葉学園 令和3年度決算(案)について 第3号議案：学校法人札幌青葉学園 就業規則変更(案)について
令和4年11月12日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 令和4年度予算の補正(案)について 第2号議案：学校法人札幌青葉学園 就業規則変更(案)について 第3号議案：学校法人札幌青葉学園 給与規程変更(案)について 第4号議案：北海道看護専門学校における教員調整手当の支給に関する細則(案)について 第5号議案：北海道看護専門学校の臨床実習施設の変更(案)について
令和5年3月10日	第1号議案：学校法人札幌青葉学園 令和5年度事業計画(案)について 第2号議案：学校法人札幌青葉学園 令和5年度予算(案)について 第3号議案：学校法人札幌青葉学園 理事の選任区分の変更(案)について 第4号議案：学校法人札幌青葉学園 理事監事評議員の選任(案)について 第5号議案：北海道歯科衛生士専門学校の臨床実習施設の変更(案)について

4 取得可能な称号

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	柔道整復学科	専門士（医療専門課程）
	鍼灸学科	専門士（医療専門課程）

（注）柔道整復師科では柔道整復師、鍼灸師科では、はり師・きゅう師の国家試験受験資格を取得可能。

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	歯科衛生士学科	専門士（医療専門課程）

（注）歯科衛生士学科では、歯科衛生士国家試験受験資格を取得可能。

◆ 北海道看護専門学校

課程	学科	称号
医療専門課程	看護学科	専門士（医療専門課程）

（注）看護学科では、看護師国家試験受験資格を取得可能。

5 学生生徒等納付金

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

（単位：円）

柔道整復学科・鍼灸学科	1年次	2年次	3年次
入学金	250,000	—	—
授業料	720,000	720,000	720,000
実習費	220,000	180,000	180,000
施設設備費	300,000	300,000	300,000
学友会費	40,000	—	—
合 計	1,530,000	1,200,000	1,200,000

（注）教科書・教材・白衣・柔道着（柔道整復学科のみ）・保険・学友会費等が別途必要となります。

（単位：円）

日本語学科（進学1年コース）	1年次
入学金	100,000
授業料	650,000
合 計	750,000

（単位：円）

日本語学科（進学1.5年コース）	1年次	2年次
入学金	100,000	—
授業料	325,000	650,000
合 計	425,000	650,000

(単位：円)

日本語学科（進学2年コース）	1年次	2年次
入学金	100,000	—
授業料	650,000	650,000
合 計	750,000	650,000

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

(単位：円)

歯科衛生士学科（昼間部）	1年次	2年次	3年次
入学金	200,000	—	—
授業料	500,000	500,000	500,000
実習・管理費	140,000	140,000	140,000
施設・設備費	210,000	210,000	210,000
学友会費	30,000	—	—
合 計	1,080,000	850,000	850,000

(注) 教科書・教材・白衣・保険等（3年間で250,000円程度）が別途必要となります。

(単位：円)

歯科衛生士学科（夜間部）	1年次	2年次	3年次
入学金	200,000	—	—
授業料	400,000	400,000	400,000
実習・管理費	100,000	100,000	100,000
施設・設備費	200,000	200,000	200,000
学友会費	20,000	—	—
合 計	920,000	700,000	700,000

(注) 教科書・教材・白衣・保険等（3年間で250,000円程度）が別途必要となります。

◆ 北海道看護専門学校

(単位：円)

看護学科	1年次	2年次	3年次
入学金	200,000	—	—
授業料	750,000	750,000	750,000
施設管理費	400,000	400,000	400,000
実習費	250,000	300,000	300,000
合 計	1,600,000	1,450,000	1,450,000

(注) 教科書、実習衣、健康診断料、学友会費、国家試験模擬試験費、同窓会費等が別途必要となります。

6 卒業及び就職等の状況

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
柔道整復学科 昼間部	37	21	0	3	13
鍼灸学科 昼間部	21	16	0	0	5
鍼灸学科 夜間部	3	3	0	0	0
合計	61	40	0	3	18

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
歯科衛生士学科 昼間部	32	32	0	0	0
歯科衛生士学科 夜間部	17	17	0	0	0
合計	49	49	0	0	0

◆ 北海道看護専門学校

(令和5年5月1日現在、単位：名)

学科	卒業生数	就職者数		進学者数	その他
		関係分野	その他分野		
看護学科	76	75	0	1	0

7 国家試験の受験状況

◆ 札幌青葉鍼灸柔整専門学校

(令和4年度新規卒業生)

学科	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
柔道整復師国家試験	26	14	53.8%	65.4%
はり師国家試験	23	21	91.3%	85.3%
きゅう師国家試験	23	21	91.3%	85.9%

◆ 北海道歯科衛生士専門学校

(令和4年度新規卒業生)

学科	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
歯科衛生士国家試験	49	49	100%	95.2%

◆ 北海道看護専門学校

(令和4年度新規卒業生)

学科	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
看護師国家試験	76	74	97.4%	95.5%

Ⅲ. 財務の概要

1 学校法人会計基準

◆ 学校法人とは

学校法人とは、私立学校の設置を目的として、私立学校法の定めるところにより設立される法人をいいます（私立学校法第3条）。学校法人は、学校法人会計基準で定めるところに従って会計処理を行い、計算書類を作成しなければならないとされています。

◆ 学校法人会計基準の特徴

学校法人は、一般の企業のように利益の追求を目的とするものではありません。学校法人は、教育研究活動を目的としていますが、収入と支出のバランスが取れなければ学校運営を維持することはできません。そのため、学校法人会計の目的は、設置運営する大学等の永続的維持、発展と教育研究活動の円滑な遂行です。同時に、経常費補助金に係る予算の適切な執行が求められます。

学校法人の収入の大半は、自由に増額することが困難な学生生徒等納付金です。また、教育研究活動の維持発展のための支出を削減することが難しい点があります。そこで、学校法人の経営状況及び財政状態を的確に把握するため、学校法人会計基準に基づき計算書類を作成する必要があります。

◆ 学校法人会計と企業会計の違い

企業が利益の追求を目的としているのに対し、学校法人は教育研究活動を目的としています。企業会計が計算書類からその経営成績を知ることが目的であるのに対し、学校法人会計は計算書類によって安定的、継続的に教育研究活動が行われているか否かを知ることが目的です。

学校法人の事業は、基本的に非営利事業です。そのため、収益事業を目的とした一般事業会社のように利益を得ることが目的とはなっていないことから、一定の制限の下に認められる収益事業を除き、企業会計における損益計算は適用されません。

2 各科目の説明

◆ 資金収支計算書の科目（収入の部）

科 目	説 明
学生生徒等納付金収入	教育研究活動の対価としての性質を有し、在学条件として義務的かつ一律に納付させる授業料、実験実習料や、学生生徒等を就学させるに当たって義務的かつ一律に納付させる入学金など。
手数料収入	特定の用役の提供に当たって受益者から徴収する手数料。入学検定料、試験料、証明手数料収入など。
寄付金収入	金銭その他の資産を寄贈者から贈与されたもので、補助金収入とならないもの。
補助金収入	国又は地方公共団体から交付される助成金。日本私立学校振興・共済事業団やこれに準ずる団体からの助成金を含む。

資産売却収入	帳簿残高のある固定資産等の売却収入。不動産売却収入、有価証券売却収入など。
付随事業・収益事業収入	補助活動収入（食堂、売店、寄宿舍等教育活動に付随する活動に係る事業の収入）、附属事業収入（附属機関（病院、農場、研究所等）の事業の収入）、受託事業収入（外部から委託を受けた試験、研究等による収入）、収益事業収入（収益事業会計からの収入）など。
受取利息・配当金収入	第3号基本金引当特定資産運用収入（第3号基本金引当特定資産の運用により生じる収入）、その他の受取利息・配当金収入（預金、貸付金等の利息、株式の配当金等。第3号基本金引当特定資産運用収入を除く）など。
雑収入	学生生徒等納付金収入から事業収入までの各収入に含まれない収入で、固定資産に含まれない物品の売却収入その他学校法人に帰属する収入。
借入金等収入	金融機関等から借り入れた資金。
前受金収入	翌会計年度以後の諸活動に対応する収入を当該会計年度において資金収入したもの。
その他の収入	学生生徒等納付金収入から前受金収入までの各収入科目に含まれない収入。積み立ててきた特定資産から繰り入れた収入や、前会計年度末における未収入金の当該会計年度における収入など。
資金収入調整勘定	当年度の諸活動に対応する収入のうち、資金の収入が当年度中に行われず、前年度又は翌年度に行われる収入項目に対応する勘定。
前年度繰越支払資金	前年度から繰り越した支払資金。

◆ 資金収支計算書の科目（支出の部）

科 目	説 明
人件費支出	教職員等に支給する人件費。教員人件費支出、職員人件費支出、役員報酬支出、退職金支出など。
教育研究経費支出	教育研究のために支出する経費。消耗品費支出、光熱水費支出、旅費交通費支出など。
管理経費支出	教育研究経費以外の経費。消耗品費支出、光熱水費支出、旅費交通費支出など。
借入金等利息支出	借入金及び学校債に係る利息支出。
借入金等返済支出	借入金及び学校債に係る返済支出。
施設関係支出	学校法人がその諸活動に使用する目的で取得する土地、建物、構築物、建設仮勘定等、固定して設置する固定資産に係る支出。
設備関係支出	学校法人がその諸活動に使用する目的で取得する教育研究用機器備品、その他の機器備品、図書、車輛等の設備又は電話加入権等の設備の利用に係る権利に係る支出。
資産運用支出	学校法人の資産運用目的による資金支出。

その他の支出	人件費支出から資産運用支出までの各科目に含まれない支出。当年度内に支払義務が確定しているが、年度末に未払いとなったもの（期末未払金）や、当年度に属する経費を前年度以前に前払いしたもの（前期末未払金）など。
資金支出調整勘定	当年度の諸活動に対応する支出のうち、資金の支出が当年度中に行われず、前年度又は翌年度に行われる支出項目に対応する勘定。
次年度繰越支払資金	翌年度へ繰り越される支払資金。

◆ 事業活動収支計算書の科目

科 目	説 明
その他の教育活動外収入	収益事業収入、外国通貨や外貨預金の円貨への交換の際に生じる為替換算差額（為替差益）など、教育研究活動以外の収入。
その他の教育活動外支出	外国通貨や外貨預金の円貨への交換の際に生じる為替換算差額（為替差損）など、教育研究活動以外の支出。
その他の特別収入	施設設備寄付金、現物寄付、施設設備補助金、過年度修正額。
資産売却差額	学校が持つ不動産、有価証券等の資産を売却した際に生じる売却益。その他、有価証券の時価の著しい下落による有価証券評価損（有価証券評価差額）、有姿除却を行った場合の有姿除却等損失を含む。
その他の特別支出	災害損失、退職給付引当金特別繰入額、デリバティブ取引の解約損。
事業活動収入	学生生徒等納付金や補助金など学校法人の負債としない収入。従来の「帰属収入」。企業会計の「収益」に当たる。
事業活動支出	年度内で消費する資産の取得価額（減価償却額など）と用役の対価として支出した額（人件費や経費支出など）。従来の「消費支出」。企業会計の「費用」に当たる。

3 財務運営

本学園の財務運営に当たっては、経営の安定を図るとともに、健全な学園運営を行うために、学生生徒等納付金などの収入の確保と支出の削減を図り、経営の合理化・効率化に努めているところです。

本学園の令和4年度の決算は、以下のようになりました。

◆ 事業活動収支計算書の予算対比について

(1) 経常収支差額：32,624千円の増

① 教育活動収支の収入：18,265千円の増 ＜内訳＞ <ul style="list-style-type: none">・学生生徒等納付金：10,237千円の増・手数料：227千円の増・経常費等補助金：8,558千円の増・付随事業収入：300千円の減・雑収：457千円の減	②教育活動収支の支出：13,844千円の減 ＜内訳＞ <ul style="list-style-type: none">・人件費：4,531千円の減・教育研究経費：4,942千円の増・管理経費：11,355千円の減・徴収不能額：2,900千円の減
② 教育活動外の収入：7千円の減	④教育活動外の支出：522千円の減

(2) 特別収支の収入支出：515千円の増

(3) 基本金組入前当年度収支差額：32,624千円の増

◆ 事業活動収支計算書の前年度対比について

(1) 経常収支差額：13,500千円の増

① 教育活動収支の収入：15,538千円の減 ＜内訳＞ <ul style="list-style-type: none">・学生生徒等納付金：28,769千円の減・手数料：558千円の減・経常費等補助金：13,677千円の増・付随事業収入：0千円・雑収入：112千円の増	②教育活動収支の支出：30,437千円の減 ＜内訳＞ <ul style="list-style-type: none">・人件費：46,121千円の減・教育研究費経費：14,910千円の増・管理経費：774千円の増・徴収不能額：0千円
② 教育活動外の収入：1,740千円の減	④教育活動外の支出：341千円の減

(2) 特別収支の収入：1,191千円の減

(3) 基本金組入前当年度収支差額：12,309千円の増

(単位：千円)

		科 目	令和4年度
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	804,582
		手数料	6,127
		寄付金	0
		経常費等補助金	70,058
		付随事業収入	0
		雑収入	443
		教育活動収入計	881,210
	支出の部	人件費	516,469
		教育研究経費	229,632
		管理経費	73,775
徴収不能額等		0	
教育活動支出計		819,876	
教育活動収支差額		61,334	
教育活動外収支	科 目		令和4年度
	収入の部	受取利息・配当金	1,753
		雑収入	0
		その他の教育活動外収入	0
		教育活動収入計	1,753
	支出の部	借入金等利息	23,278
		その他の教育活動外支出	1,100
		教育活動外支出計	24,378
	教育活動外収支差額		△22,625
	経常収支差額		38,709
特別収支	科 目		令和4年度
	収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	0
		特別収入計	0
	支出の部	資産処分差額	1,243
		その他の特別支出	0
		特別支出計	1,243
特別収支差額		△1,243	
科 目		令和4年度	
【予備費】			
基本金組入前当年度収支差額		37,466	

5 貸借対照表

(単位：千円)

資産の部		
科 目	本年度末	前年度末
固定資産	1,885,033	1,893,771
有形固定資産	1,682,925	1,692,091
その他の固定資産	202,108	201,680
流動資産	265,420	251,215
資産の部合計	2,150,453	2,144,986
負債の部		
科 目	本年度末	前年度末
固定負債	1,345,820	1,378,471
流動負債	668,321	667,669
負債の部合計	2,014,141	2,046,140
純資産の部		
科 目	本年度末	前年度末
基本金	1,788,213	1,745,286
繰越収支差額	△1,651,901	△1,646,440
純資産の部合計	136,312	98,846
負債及び純資産の部合計	2,150,453	2,144,986

6 財産目録

(単位：千円)

科 目	令和4度末	
1 資産総額	2,150,453	
(1) 基本財産	1,885,033	
1 土 地	1,974.27㎡	447,922
札幌青葉鍼灸柔整専門学校校舎校地	1,080.95㎡	159,193
北海道看護専門学校校舎校地	893.32㎡	288,729
2 建 物	9,189.90㎡	1,172,178
札幌青葉鍼灸柔整専門学校校舎	3,466.64㎡	442,722
北海道歯科衛生士専門学校校舎	2,151.71㎡	257,640
北海道看護専門学校校舎	3,571.55㎡	471,816
3 借地権北海道歯科衛生士専門学校校舎	1,097.86㎡	25,200
4 図 書	一式	34,598
5 教育研究用機器備品	一式	23,414
6 管理用機器備品	一式	4,813
7 ソフトウェア	1,852	
8 出資金	20	
9 敷金	36	
10 長期貸付金	175,000	
(2) 運用財産	265,420	
1 現預金	82,027	
2 未収入金	3,823	
3 前払金	4,566	
4 立替金	4	
5 短期貸付金	175,000	
2 負債総額	2,014,141	
1 長期借入金	1,259,560	
2 長期未払金	28,936	
3 退職給与引当金	57,324	
4 短期借入金	57,840	
5 前受金	555,563	
6 預り金	30,587	
7 未払金	24,331	